



# 啐啄同機

鶴岡市立藤島中学校  
令和8年4月24日発行  
教育精神「高志」  
「啐啄同機」

新しい学年の始まりを祝うかのように桜の花びらが舞う中、新入生62名を迎え、全校生徒数195名と新たな教職員の組織で、伝統ある藤島中学校の希望に満ちた令和8年度が始まりました。

今年度より、藤島中学校に着任いたしました五十嵐章雄(いがらし あきお)と申します。歴代の校長先生をはじめ、教職員が築いてこられた実績や、保護者・地域の方々の信頼を受け継ぎ、本校の教育活動の一層の充実に全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



## 自律・尊重・創造 ～新年度にあたって～

始業式にあたり、学校教育目標の「自律」「尊重」「創造」にかかわって、私自身の経験も含めて、生徒に次のような話をしました。

新しい学年が始まりました。新しいクラス、新しい仲間との生活に、期待を感じている人もいれば、不安な気持ちを抱えている人もいることでしょう。4月は、自分が成長するきっかけをつかめる大切な時期です。昨年までの自分の中の負の部分はここで区切りをつけ、新たなスタートとして歩み出してほしいと思います。

私は中学卒業のとき、第一志望だった高校に合格することができませんでした。多くの場合は、第2志望の学校に進学する道を選ぶと思いますが、私はもう一年勉強し、再挑戦することを選びました。同級生たちが高校生活を送る中で、行き先のない時間を過ごし、強い孤独を感じることもありました。

それでも一年後、第一志望だった学校に合格し、高校生活を送ることができました。高校に入ってから居づらさを感じる場面はありましたが、それは自分で選んだ道です。不合格だったのも自分の実力であり、もう一度挑戦すると決めたのも自分でした。大学や社会に出てからは、1年遅れたということが問題になることはほとんどありません。だから私は、あの経験を失敗だったとは思っていません。

自分で決断し、その結果を受け止めて生きること。これは、本校の教育目標である「自律」につながるものです。これから皆さんは多くの選択をしていきます。すべてがうまくいくとは限りません。壁にぶつかり、周囲と比べて落ち込むこともあるでしょう。それでも、自分で決めて進んだ道であれば、その経験は必ず自分の力になります。つらいときには、友人や家族、教師を頼ってください。必ず支えてくれる人がいます。

次に、本校の教育目標の二つ目である「尊重」についてです。「当たり前」の言葉をありますが、その「当たり前」は人によって違います。育った環境や考え方が違えば、「当たり前」も異なるのです。自分の考えを押し付けるのではなく、相手の立場を想像し、受け止めることが大切です。

部活動やクラブで大会会場に入った瞬間に「このチームは違う」と感じたことはありませんか。挨拶の声や行動の速さなど、そのチームにとっての高いレベルの「当たり前」の積み重ねが場の雰囲気をつくっています。

藤島中学校にとっての「当たり前」はどうでしょうか。今の当たり前に満足せず、より良い当たり前を自分たちの手でつくっていくこと。それが三つ目の目標である「創造」です。

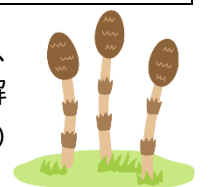
**自律—自分で決め、責任を持つ。 尊重—違いを認め、思いやる。 創造—より良い当たり前を生み出す。**

皆さん一人ひとりの行動が、藤島中学校そのものをつくっていきます。教職員一同、皆さんの挑戦を全力で支え、応援していきます。今年一年、共に素晴らしい学校を創っていきましょう。



生徒一人ひとりが安心して学び、人とのつながりの中で成長していけるよう、教職員一同努めてまいります。今後とも、本校の教育活動への変らぬご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

(文責:校長)



# 中学3年生として踏み出す一歩

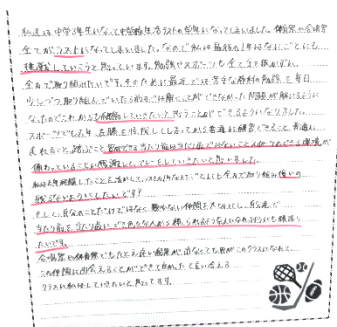
新年度を迎え、子どもたちは一年をスタートさせました。各クラスの前には、今年度の子どもたちの目標が掲示されています。中学3年生の作文を紹介します。

「中学3年に進級して」というテーマで書かれた作文からは、進級への期待だけでなく、不安や迷い、そしてそれを受け止めながら前へ進もうとする一人一人の強い思いが伝わってきました。

多くの作文で見られたのは、最上級生としての自覚です。「学校全体を引っ張っていかなければならない」「今度は自分が引っ張る側になりたい」といった言葉からは、これまで支えられてきた立場から、周囲を支える存在へと意識が変化している様子がうかがえます。行事や日常生活の中で、自分に求められる役割を考え、クラスや学校全体のことを思って行動しようとする姿は、とても頼もしく感じられました。

合唱や体育祭、部活動などについても、「最後だからこそ全力で取り組みたい」「クラスの仲をこれまで以上に深めたい」という思いが多く語られていました。行事を通して、仲間とともに一つのものを創り上げる経験を大切にしようとする姿勢は、中学校生活の集大成にふさわしいものです。

そのようなリーダーとしての意識は、学習への向き合い方にも表れています。受験生として気持ちを高めるだけでなく、自分自身の現状をしっかりと見つめ、無理のない方法で努力を続けようとしている点が印象的でした。高い目標を一気に掲げるのではなく、「30分間集中する」「20ページ終わらせる」といった、今の自分に合った目標を立てている点です。毎日同じことを続けることだけが大切のではなく、自分のスケジュールややる気、理解度に応じて学び方を調整しようとしている姿に、成長を感じます。自分自身をよく理解し、その時々合った方法で前に進もうとする姿勢は、これからの学びを支える大切な力になることでしょう。



将来を見据えた言葉も多く見られました。「将来のために、今の自分と向き合っていきたい」「卒業するまでの一年を、悔いの残らないように過ごしたい」といった言葉には、今の努力を未来につなげようとする強い意志が感じられます。「受験のため」「中学生最後だから」という理由にとどまらず、自分の生き方として努力を捉え、自ら選び、決断しようとする姿は、大きな成長の表れです。

今回の作文に見られた、先を見据えて一日一日を大切にしようとする姿勢を、これからも学校全体で大事にしていきたいと考えています。

## 令和8年度 教育課程等の変更について

- 1 藤島地域に令和11年度から義務教育学校の開校が決まりました。よって令和10年末に本校は閉校となります。閉校と開校に向けた動きが令和8年度から活発化することが予想されます。通常業務に加えての動きとなりますので、他機関と連携を図りながら丁寧に進めていきたいと思っております。
- 2 体育祭を9月中旬、合唱祭を10月中旬に戻します。縦のつながりねらいとした体育祭が、学級づくりをねらいとしている合唱祭よりも前にあることで、リーダーとしての活躍の仕方を学ぶことができ、1、2年生にとって効果があった。ただし練習時の暑熱対策として、積極的に本校体育館、藤島体育館を利用する。
- 3 生徒会副会長の男女の撤廃し1人に減らし、生徒会専門委員会を見直して1つ減らします。
- 4 勤務時間内に生徒の活動を終わらせるため、部活動時間を5分短縮します。火水金の部活動の時間を5分短縮し16:45活動終了、下校を17:00にする予定です。

以上のように学校の教育課程や年間計画を変更します。関係各位からご理解いただき、なお一層のご協力をお願いいたします。